

14. 仮定法

1.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

- (1) もし彼の住所を知っているなら、私は彼に
この本を送るだろう。

(book / I / I / , / send / his / . / if / him / this /
address / knew / would)

- (2) もし私が鳥なら、あなたのところへ飛んで
いけるのに。

(I / , / fly / a / . / you / if / to / I / bird / were /
could)

[解答]

(1) If I knew his address,

I would send him this book.

(2) If I were a bird, I could fly to you.

Note

14. 仮定法

1. 仮定法過去

(1) もし彼の住所を知っているなら、私は彼に
この本を送るだろう。

If / I / knew / his / address,

仮定法過去

If+主語+過去形~, 主語+would など+動詞の原形…
「もし~なら、…だろう」

I / would / send / him / this / book.

send A B

「AにBを送る」

仮定法とは、大雑把に言えば、事実ではないことを空想して述べる言い方だということができますが、基本となる形には「仮定法過去」と「仮定

法過去完了」の2つがあります。まず、この2つを理解しておくことが大切になります。

まず、仮定法過去とは次のようなものです。

仮定法過去…現在の事実と反すること、またはあり得ないことを想像して述べる表現。

名前は「仮定法過去」ですが、あくまで「現在の事実と反すること」です。動詞の過去形を使っていることから、こんな名前になっていますが、ここがまずみんな混乱しやすいところです。注意してください。そして、その基本の形と意味は次のようになります。

〔仮定法過去の基本形〕

If + 主語 + 動詞過去形 ~, 主語 + would + 動詞原形…
should
could
might

〔意味〕

「もし～なら、…だろう[…するのだが]」(would, should のとき)

「もし～なら、…できる(のに、のだが)」(could のとき)

「もし～なら、…かもしれない(のに、のだが)」(might のとき)

If I knew his address, I would write to him.

(もし私が彼の住所を知っているなら、手紙を書くだらう。)

If I knew his address, I could write to him.

(もし私が彼の住所を知っているなら、手紙を書くことができる。)

If I knew his address, I might write to him.

(もし私が彼の住所を知っているなら、手紙を書くかもしれない。)

If ~ の部分を「if節」または「従属節」、後半の主語+would など+動詞原形…の部分を「主節」または「帰結節」といいます。

(1)の問題では「もし彼の住所を知っているなら、私は彼にこの本を送るだろう。」ですが、実際は「彼の住所を知らないので、本を送らない」ということで、現在の事実と反することを想像していますので、仮定法過去を使います。まず **If I knew his adress** を作り、その後、**I would send him this book** を続けましょう。

Note

(2) もし私が鳥なら、あなたのところへ飛んでいけるのに。

If I were a bird, I could fly to you.

仮定法過去

If + 主語 + 過去形~, 主語 + could など + 動詞の原形...

「もし~なら、...できるだろう」

仮定法過去では、If ~ のところが **be** 動詞のときは次のようになります。

If 節が **be** 動詞のときは、**were** を使う。
(口語では **was** もある。)

If I were you, I wouldn't do such a thing.
(もし私があなたなら、そんなことはしないだろう。)

(2)の問題では「もし私が鳥なら、あなたのところへ飛んで行けるのに。」で、実際は「私は鳥ではないので、飛んではいけない」ですから現在の事実と反する想像になりますので、仮定法過去を使います。**If I were a bird** を作り、その後 **I could fly to you** を続けることになります。

2.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

- (1) もし彼の住所を知っていたなら、私は彼に
この本を送っていただろう。

(would / known / address / , / have / I / I /
his / if / him / had / . / book / sent / this)

- (2) もし私がその電車に乗っていたなら、今ごろ
は京都にいられるのに。

(taken / , / in / I / be / now / the / I / if / had /
. / Kyoto / train / could)

[解答]

(1) If I had known his address,

I would have sent him this book.

(2) If I had taken the train,

I could be in Kyoto now.

Note

2. 仮定法過去完了

(1) もし彼の住所を知っていたなら、私は彼にこの本を送っていたらう。

If I had known his address,

← 仮定法過去完了
If+主語+had+過去分詞～,
主語+would など+have+過去分詞…
「もし～だったら、…だったろう」

I would have sent him this book.

send A B
「AにBを送る」

さて、仮定法過去は「現在」の事実に対する想像でしたが、「過去」の

事実に反する想像は「仮定法過去完了」を使います。

仮定法過去完了…過去の事実に反することを想像して述べる表現。

そして、その基本の形と意味は次のようになります。

[仮定法過去完了の基本形]

If + 主語 + 過去完了 ~, 主語 + would + have + 過去分詞 ….
should
could
might

[意味]

「もし～だったら、…だっただろう(に)」(would, should のとき)

「もし～だったら、…できただろう(に)」(could のとき)

「もし～だったら、…だったかもしれない(のに)」(might のとき)

If I had known his address, I would have written to him.

(もし私が彼の住所を知っていたなら、手紙を書いただろう。)

If I had known his address, I could have written to him.

(もし私が彼の住所を知っていたなら、手紙を書くことができたのに。)

If I had known his address, I might have written to him.

(もし私が彼の住所を知っていたなら、手紙を書いたかもしれない。)

(1)の問題では「もし彼の住所を知っていたなら、私は彼にこの本を送っていたらう。」ですが、実際は「彼の住所を知らなかったので、本を送らなかった」ということです。過去の事実に反することを想像していますので、仮定法過去完了を使って、まず **If I had known his address** を作り、その後、**I would have sent him this book** を続けることとなります。

Note

(2) もし私がその電車に乗っていたなら、今ごろは京都にいられるのに。

If I had taken the train,

← 仮定法過去完了と仮定法過去の組合せ

If + 主語 + had + 過去分詞~, 主語 + would など + 動詞の原形…

「もし~だったら、~だろう」

I could be in Kyoto now.

(2)の問題は、今まで述べた仮定法過去と仮定法過去完了を組み合わせた次のような表現を使っています。

[仮定法過去完了 + 仮定法過去]

If + 主語 + 過去完了~, 主語 + would + 動詞原形…

should

could

might

[意味]

「もし~だったら、…だろう」(would, should のとき)

「もし~だったら、…できる(のに)」(could のとき)

「もし~だったら、…かもしれない(のに)」(might のとき)

これは「過去において~だったら、今は…だろう」と過去の事実に対する行動や出来事・状況が現在に影響を及ぼしていることを示す表現です。

3.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

- (1) もし仮にあなたが死んだら、彼らは悲しむ
でしょう。

(to / would / you / . / they / die / if / be / , /
were / sad)

- (2) もし万一 4月に雪が降ったら、彼らは驚く
でしょう。

(snow / April / it / , / surprised / will / if / in /
. / at / should / it / be / they)

[解答]

(1) If you were to die, they would be sad.

(2) If it should snow in April,

they will be surprised at it.

Note

3. were to や should を使った仮定法

(1) もし仮にあなたが死んだら、彼らは悲しむでしょう。

If/you/were to die, they/would be sad.

If+主語+were to+動詞の原形~, ...
「もし仮に~なら、...」

「悲しい」

ここまで仮定法過去は「現在の事実と反すること、またはあり得ないことを想像して述べる表現」で、仮定法過去完了は「過去の事実と反することを想像して述べる表現」と述べました。この2つの表現が仮定法の中心ですが、どちらも「事実とは違う」ということが要点です。

これらとは別に、「まだ事実が確定していない将来や未来のことがらで、しかも実現する可能性が低いと話し手が思っている仮定」を表す表現が2つあります。まずその1つ、〈were to の仮定法〉を述べると次のようになります。

[were to の仮定法]

If + 主語 + were to + 動詞原形 ～, 主語 + would + 動詞原形 …
should
could
might

[意味]

「もし仮に～ならば、…だろう」(would, should のとき)

「もし仮に～ならば、…できるだろう」(could のとき)

「もし仮に～ならば、…かもしれない」(might のとき)

- ① **If you were to die, they would be sad.**
(もし仮にあなたが死んだら、彼らは悲しむでしょう。)
- ② **If the sun were to rise in the west, I wouldn't change my mind.**
(もし仮に太陽が西から上っても私は決心を変えないだろう。)

この〈If ～ were to …〉は、全く実現不可能な仮定から実現の可能性のある仮定まで、いろいろな段階の仮定を表すことができます。

また、この構文を次に出てくる **should** の仮定法と合わせて、未来の内容を仮定するので「仮定法未来」と呼ぶこともありますが、動詞に過去形を使うので「仮定法過去」の1つであるとすることもあります。呼び方はともかく、この形を覚えておきましょう。

口語では、主語が1人称単数や3人称単数の場合に **was to ～** が使われることがあります。また、文語調では **if** を省略して、〈**Were + 主語 + to ～**〉の語順になることがあります。

Were the sun to go out, all living things would die.

(もし仮に太陽が消滅したら、生物はみな死ぬだろう。)

Note

(3) もし万一 4月に雪が降ったら、彼らは驚くでしょう。

If it should snow in April,

If + 主語 + should + 動詞の原形～, …
「もし万一～ならば、…」

they will be surprised at it.

「～に驚く」

もう 1 つの表現は次のようなものです。

[should の仮定法]

If + 主語 + should + 動詞原形 ～, 主語 + will + 動詞原形 …,
shall
would
should

[意味] 「もし万一～ならば、…だろう」

この〈If ～ should …〉は、そうした事態が起こるか起こらないかわからないが、話し手が可能性が少ないと思っている場合に用います。しかし、絶対に起こりえないことがらの仮定には使えません。

この should は if 節の内容の不確かさを示すために入っています。

可能性が五分五分のような単なる条件と話し手が思っているときは、主節のところに will や shall を使い、起こる可能性が極めて少ない内容だと思っている場合には、would や should を使います。

4.

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

- (1) もしあなたが病気なら、どんなスポーツも
楽しめないでしょう。

(sick / enjoy / . / you / sport / couldn't /
 , / were / you / any)

- (2) もし私が彼の名前を知っていたなら、私は
彼に話しかけただろう。

(him / his / would / spoken / , / had / . /
 have / I / I / name / to / known)

- (3) もし万一それに失敗したら、私は再び試みる
つもりです。

(in / try / I / I / it / it / should / . / , / again /
 fail / would)

[解答]

(1) Were you sick, you couldn't enjoy any sport.

(2) Had I known his name,

I would have spoken to him.

(3) Should I fail in it, I would try it again.

Note

4. if の省略

(1) もしあなたが病気なら、どんなスポーツも
楽しめないでしょう。

Were you sick, you couldn't enjoy any sport.

倒置による if の省略

not ... any ~
「どんな～も…ない」

仮定法においては次の場合、if を省略することができます。

were, had, should を主語の前に出して倒置にすると、
if を省略できる。

Were he a parent, he would feel differently.

(もし彼が親なら、彼は違ったふうに感じるだろう。)

Had she gone to the station, she couldn't have seen him.

(もし彼女が駅へ行っていたら、彼とは会えなかったでしょう。)

Should anything happen, call me.

(もし万一何かあったら、私に電話してください。)

この形をとるのは **were, had, should** の場合だけで、その他の助動詞 (**could, might** など) が前に出るとはまれです。

また、この形は文語調になります。

(1)の問題では「もしあなたが病気なら、…」となっていますが、()内の語に **if** がないので、**Were you sick** として英文を作りましょう。

Note

(2) もし私が彼の名前を知っていたなら、私は
彼に話しかけたらう。

Had I known his name,

↑
倒置による if の省略

I would have spoken to him.

↑
speak to ~
「～に話しかける」

(2)の問題では「もし私が彼の名前を知っていたなら、…」ですが、()内の語に **if** がないので、**Had I known his name** と倒置の形にして英文を作ることになります。

Note

(3) もし万一それに失敗したら、私は再び試みる
つもりです。

Should I fail in it, I would try it again.

倒置による if の省略

「失敗する」

(3)の問題では「もし万一それに失敗したら、…」となっていますが、()
内の語に if がないので、Should I fail in it と倒置の形にすることになります。

5

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

- (1) もし水がないなら、私たちは生きることができなだらう。

(were / we / water / it / , / . / for / if / live /
could / not / not)

- (2) もし空気がないなら、私たちは死ぬだらう。

(it / air / we / die / were / . / not / would /
 , / for)

- (3) もしこの免許がないなら、私は運転できないでしょう。

(for / , / drive / . / not / this / I / but / could /
license)

- (4) もしこの本がないなら、私は道に迷っているかもしれない。

(book / get / this / might / without / lost / , /
I / .)

[解答]

- (1) If it were not for water, we could not live.
- (2) Were it not for air, we would die.
- (3) But for this license, I could not drive.
- (4) Without this book, I might get lost.

Note

5. 仮定法を含む重要表現

- (1) もし水がないなら、私たちは生きることができないだろう。

If it were not for water, we could not live.

↑
if it were not for ~ 「もし~がなければ」

仮定法を含む重要表現には、まず次のようなものがあります。

If it were not for ~, 主語 + would など + 動詞原形 …
「もし~がなければ、…だろう」

If it were not for this book, I could not understand English.
(もしこの本がなければ、私は英語が理解できないだろう。)

(1)の問題では「もし水がないなら…」となっていますので、If it were not

for water の語順にして英文を作りましょう。

Note

(2) もし空気がないなら、私たちは死ぬだろう。

Were it not for air, we would die.

↑
Were it not for ~ 「もし~がないなら」

この(2)の問題は(1)の表現を倒置にして if を省略したものです。

Were it not for ~, 主語 + would など + 動詞原形 …
「もし~がなければ、…だろう」

(2)では「もし空気がないなら…」ですが、()内に if の語がないので、Were it not for air の語順を作ることになります。

Note

(3) もしこの免許がないなら、私は運転できないでしょう。

But for this license, I could not drive.

↑
but for ~
「もし~がなければ」

↑
「免許」

↑
仮定法過去の主節

(1)や(2)と同意のものに次の表現があります。

But for ～, … 「もし～がなければ、…」

(3)の問題では「もしこの免許がないなら…」ですので、But for this license の語順にして英文を組み立てましょう。

Note

(4) もしこの本がないなら、私は道に迷っている
かもしれない。

Without this book, I might get lost.

The diagram shows the sentence "Without this book, I might get lost." with three callout boxes pointing to different parts of the sentence:

- A box pointing to "without ~" with the Japanese translation "「もし～がなければ」".
- A box pointing to "I might get lost" with the Japanese translation "仮定法過去の主節".
- A box pointing to "get lost" with the Japanese translation "「道に迷う」".

同様なものに次のような表現もあります。

Without ～, … 「もし～がなければ、…」

(4)の問題では「もしこの本がないなら…」ですので、Without this book の語順を作ることになります。

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(5) もし水がなかったら、私たちは生きることが
できなかつただろう。

(been / water / it / lived / not / if / could /
for / had / , / not / . / have / we)

(6) もし空気がなかったら、私たちは死んでしま
つただろう。

(been / , / it / air / die / for / had / . / have /
we / not / would)

(7) 彼の車がなかったら、私は遅れていただろう。

(I / for / late / have / his / but / , / been / . /
car / would)

(8) この本がもしなかったら、私は道に迷ってい
たかもしれない。

(book / got / this / might / without / lost /
 , / I / . / have)

[解答]

- (5) If it had not been for water,
we could not have lived.
- (6) Had it not been for air, we would have die.
- (7) But for his car, I would have been late.
- (8) Without this book, I might have got lost.

Note

(5) もし水がなかったら、私たちは生きることが
できなかつただろう。

If/it had not been for water,

if it had not been for ~
「もし～がなかったなら」

we could not have lived.

「生きることができなかつただろう」

(1)~(4)の英文は「現在の事実に反する仮定」ですので、「仮定法過去」を使った表現でしたが、同じように「過去の事実に反する仮定」の「仮定法過去完了」を使った次のような表現があります。

If it had not been for ～, 主語＋would have＋過去分詞 ….
「もし～がなかったならば、…だっただろう」

(5)の問題では「もし水がなかったら…」ですので、If it had not been for water の語順にして英文を作りましょう。

Note

(6) もし空気がなかったら、私たちは死んでしまっただろう。

Had it not been for air, we would have die.



Had it not been for ～
「もし～がなかったなら」

この(6)の問題は(5)で使っている表現を倒置にしてifを省略したものです。

Had it not been for ～, 主語＋would have＋過去分詞 ….
「もし～がなかったならば、…だっただろう」

(6)では「もし空気がなかったら…」ですが、()内に if の語がないので、Had it not been for air の語順を作ることになります。

Note

(7) 彼の車がなかったら、私は遅れていただろう。

But for his car, I would have been late.

but for ~
「もし～がなければ」

would have + 過去分詞
(仮定法過去完了の主節)

late
「遅れて」

Note

(8) この本がもしなかったら、私は道に迷っていたかもしれない。

Without this book, I might have got lost.

without ~
「もし～がなければ」

might have + 過去分詞
(仮定法過去完了の主節)

got lost
「道に迷う」

(3)や(4)の問題で出てきた **but for** ~や **without** ~も、上の問題(7)や(8)のように仮定法過去完了で使うことができます。

But for ~, ... 「もし～がなかったら、…」

Without ~, ... 「もし～がなかったら、…」

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(9) 彼女の名前を知っていればいいのになあ。

(knew / wish / name / . / I / I / her)

(10) そのコンサートのチケットを買ったらよかったのになあ。

(bought / ticket / wish / concert / . / the /
had / I / I)

(11) 彼女はまるで母親のように話す。

(she / talks / . / if / were / mother / she /
a / as)

(12) 彼はまるで本当にそこにいたかのように話した。

(if / really / . / talked / been / he / there / he /
had / as)

[解答]

- (9) I wish I knew her name.
- (10) I wish I had bought the concert ticket.
- (11) She talks as if she were a mother.
- (12) He talked as if he had really been there.

Note

(9) 彼女の名前を知っていればいいのになあ。

I wish / I knew / her name.

I wish + 仮定法過去「～ならいいのになあ」

仮定法には、現在や過去の事実と異なることを願ったり、悔やんだりする気持ちを表す次のような表現があります。

- ① I wish + 主語 + 過去形 ～. 「～ならいいのになあ」
- ② I wish + 主語 + 過去完了 ～. 「～ならよかったのになあ」

- ① I wish I were a university student.
(私は大学生ならいいのになあ。)
I wish I could fly. (私は飛ぶことができたならいいのになあ。)
- ② I wish I had married another man.
(私は別の男と結婚すればよかったのになあ。)

(9)の問題では「…がわかればいいのになあ」なので、〈I wish + 主語 + 過去形 ~.〉の表現を使って、I wish I knew の英文を作りましょう。

Note

(10) そのコンサートのチケットを買ったらよかったのになあ。

I wish I had bought the concert ticket.

I wish + 仮定法過去完了
「～だったらよかったのになあ」

(10)の問題では「…が買えたらよかったのになあ」と過去の事実と異なることを願っていますので、〈I wish + 主語 + 過去完了 ~.〉の表現を使って、I wish I had bought の語順を作ります。

Note

(11) 彼女はまるで母親のように話す。

She talks as if she were a mother.

as if + 仮定法過去
「まるで～であるかのように」

仮定法には、「まるで～であるかのように」などと事実とは異なるたとえを述べる次のような表現があります。

- ① as if [as though] + 主語 + 過去形 へ。
「まるで～であるかのように」
- ② as if [as though] + 主語 + 過去完了 へ。
「まるで～であったかのように」

- ① She talked as if she were a mother.
(彼女はまるで母親のように話した。)
- ② She talks as if she had been a mother.
(彼女はまるで母親だったかのように話す。)

主節と同じ時のことがらなら主節の時制にかかわらず①の仮定法過去で、主節より前の時のことなら②の仮定法過去完了を使います。

(11)の問題では、「まるで母親のように話す」で主節の *talkes* と同じ時なので、仮定法過去の形をとって *as if she were a mother* とします。

Note

(12) 彼はまるでそこにいたかのように話した。

He / talked / as if he had been / there.

↑
as if + 仮定法過去完了
「まるで～であったかのように」

(12)の問題では「まるでそこにいたかのように」となっていて、これは *talked* より前の時のことなので、仮定法過去完了の形を用います。、*as if he had been there* とすることになります。

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(13) 雪が降りさえすればいいのになあ。

(it / . / only / snow / would / if)

(14) もうあなたは寝る時間ですよ。

(time / went / you / to / it / . / bed / is)

(15) 私を手伝っていただけますでしょうか。

(could / wonder / you / me / help / I / . / if)

(16) この傘を使ってもよろしいでしょうか。

(if / ? / you / used / this / would / I / mind /
umbrella)

[解答]

- (13) If only it would snow.
- (14) It is time you went to bed.
- (15) I wonder if you could help me.
- (16) Would you mind if I used this umbrella?

Note

(13) 雪が降りさえすればいいのになあ。

If only / it / would snow.



If only+仮定法過去「～しさえすればよいのだが」

(13)の問題は次の表現を使って英文を作りましょう。

- ① If only+主語+過去形 ～. 「～でさえあればなあ」
- ② If only+主語+過去完了 ～. 「～でさえあったらなあ」

- ① If only I could swim.
(私が泳ぐことさえできればいいのになあ。)
- ② If only our team had won the game.
(私たちのチームがその試合に勝ってさえすればなあ。)

この表現は、①現在や②過去の事実と異なる強い願望や後悔を表すものです。I wish よりやや強い言い方になります。

Note

(14) もうあなたは寝る時間ですよ。

It is time you went to bed.

It is time + 仮定法過去 「もう～してもよい時間だ」

(14)の問題は次の表現を使って英文を組み立ててください。

It is time + 主語 + 過去形 ～. 「もう～してもよい時間だ」

It's time you took a bath. (もうお風呂に入る時間です。)

これは「もう～してもいい時間なのに、まだしていない」と相手に注意を促す表現です。timeの前に about や high を伴うこともあります。

It's about time you took a bath.

(もうそろそろお風呂に入る時間です。)

It's high time you took a bath.

(もうとっくにお風呂に入る時間です。)

Note

(15) 私を手伝っていただけますでしょうか。

I wonder if you could help me.

I wonder if ～
「～していただけますか」

仮定法過去

(15)の問題は次の表現を使っています。

I wonder if + 主語 + 過去形 ～. 「～していただけますか」

wonder if ～ は「～か(どうか)など思う」という意味です。その後に仮定法過去を置いて丁寧さを表しています。

仮定法は可能性や実現性が低いことを表し直接的な意味合いが薄れるので、「もしよければ～」「もしできれば～」といった丁寧な表現として使うことができるのです。

Note

(16) この傘を使ってもよろしいでしょうか。

Would you mind if I used this umbrella?



Wonder you mind if ～ + 仮定法過去
「～してもよろしいですか」

(16)の問題は次の表現を使っています。

Would you mind if ～? 「～してもよろしいですか」

mind は「～を嫌だと思ふ、気にする」という意味で、Would you mind if ～? は「もし～したら、あなたは嫌でしょうか」というのが文字通りの意味です。would を使うことで丁寧な表現になります。

また、if ～の後の動詞は過去形(仮定法過去)にするのが丁寧な感じになってふつうですが、現在形でもかまいません。ただ、現在形を使うとくだけた感じになります。

6

次の日本文に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

- (1) いい友だちなら、そのようなことは言わない
だろう。

(wouldn't / things / good / . / that / say /
like / a / friend)

- (2) 彼女を見れば、彼らは彼女を天使だと思うだ
ろう。

(they / , / see / an / think / angel / to / . /
her / would / her)

- (3) 2分早ければ、彼は電車に乗れただろう。

(minutes / , / he / . / train / have / two / the /
could / earlier / caught)

[解答]

(1) A good friend wouldn't say things like that.

(2) To see her, they would think her an angel.

(3) Two minutes earlier,

he could have caught the train.

Note

6. if ~ に代わる表現

(1) いい友だちなら、そのようなことは言わない
だろう。

A good friend / wouldn't say / things like that.

↑
主語に仮定の意味が
含まれている

↑
仮定法過去の主節の形

if 節以外で仮定の意味を含むものに、次のような場合があります。こうした場合、仮定法かどうかは主節の動詞の形で判断することになります。

- ① 主語
- ② 不定詞
- ③ 分詞
- ④ 場所・立場・時などの副詞(句)

- ③ Arriving late, you couldn't have take the plane.
(遅れて到着していたら、その飛行機に乗れなかったでしょう。)
- ④ We could live happily here.
(ここでなら、私たちは幸せに暮らせるでしょう。)
- In your place, I would do my best.
(あなたの立場なら、私は全力を尽くすでしょう。)

(1)の問題では「いい友だちなら…だろう」なので、①の用法の主語に仮定の意味が含まれていると考えましょう。そして「…言わないだろう」を仮定法過去の主節の形にして、**wouldn't say** とします。

Note

(2) 彼女を見れば、彼らは彼女を天使だと思うだろう。

To see her, they would think her/an angel.

↑
不定詞に仮定の意味が含まれている

↑
仮定法過去の主節の形

不定詞にも仮定の意味を含ませることができます。(2)の問題では、「彼女を見れば…」となっていますが、()内に if がないので、不定詞を使って **To see her** とすることになります。「…と思うだろう」を仮定法過去で **would think** としましょう。

Note

(3) 2分早ければ、彼は電車に乗れただろう。

Two minutes earlier,

副詞句に仮定の意味
が含まれている

early「早く」
の比較級

he could have caught the train.

仮定法過去完了の主節の形

場所・立場・時などの副詞句にも仮定の意味を含めることができます。(3)の問題では「2分早ければ…だろう」と過去の事実と反する仮定を述べていますが、()内に if がないので、副詞句 **Two minutes earlier** を代わりに作ります。そして、主節は仮定法過去完了の形にして **could have caught** としてください。

次の日本語に合う英語になるように()内の語を並べかえなさい。

(4) もう一人いれば、野球ができるでしょう。

(more / , / baseball / . / with / could / man /
play / one / we)

(5) 私はタクシーで行った。そうでなければ、
私は遅れていただろう。

(taxi / went / , / have / I / otherwise / by / I /
late / . / been / would)

(6) もしあなたがネコだったら、何をしますか。

(you / , / you / what / were / suppose / would /
/ a / do / ? / cat)

(7) ペンは、インクが入っていなければ、役に
立たない。

(which / ink / would / a / , / , / had / useless /
/ . / pen / no / be)

[解答]

(4) With one more man, we could play baseball.

(5) I went by taxi,

otherwise I would have been late.

(6) Suppose you were a cat, what would you do?

(7) A pen, which had no ink, would be useless.

Note

(4) もう一人いれば、野球ができるでしょう。

With one more man, we could play baseball.

↑
with に仮定の意味が
含まれている

↑
仮定法過去の主節の形

さらに加えて、if 節以外で仮定の意味を含むものに次のような場合があります。同じく、仮定法かどうかは主節の動詞の形で判断するのがポイントです。

- ⑤ with や without
- ⑥ otherwise 「そうでなければ」
- ⑦ Suppose ～、Supposing ～ 「もし～としたら」
- ⑧ 関係代名詞

先に出てきた **without** の他に **with** にも仮定の意味を含むことができます。(4)の問題では「もう一人いれば…」なので **With one more man** とし、その後は仮定法過去の主節の形にして **could play** とします。

Note

(5) 私はタクシーで行った。そうでなければ、
私は遅れていただろう。

I/went/by taxi,

otherwise I would have been late.

otherwise に仮定の
意味が含まれている

仮定法過去完了の主節の形

otherwise は先に述べた事実と反する仮定を表し「もしそうでなければ、もしそうでなかったら」などの意味になります。

(5)の問題では「私はタクシーで行った」という過去の事実が述べられていて、それに反する仮定「そうでなければ私は遅れていただろう」となっていますので、仮定法過去完了の主節の形を使って、**otherwise I would have been late** とします。

なお、**otherwise** には「別のやり方で」「その他の点では」の意味もあり、この意味では仮定法にはなりませんので注意しましょう。

Note

(6) もしあなたがネコだったら、何をしますか。

Suppose 「you were a cat,」/what /would/you /do?

↑
suppose に仮定の意味が含まれている

suppose や supposing 「もし～としたら」が仮定法で使われることがあります。その後は実現の可能性があれば直説法(仮定法ではない通常的事実を述べる方法)、可能性が少ない場合は仮定法が用いられます。

Suppose she comes here? (もし彼女がここに来たら?) [可能性有り]

Note

(7) ペンは、インクが入っていなければ、役に立たない。

A pen, /which had no ink, /would be useless.

↑
関係代名詞に
仮定の意味が
含まれている

↑
仮定法過去

↑
仮定法過去の主節の形

関係代名詞にも仮定の意味を含む場合があります。(7)の問題では、pen を前に置いて、それを先行詞にして「インクが入っていなければ」を、,which had no ink, として英文を作りましょう。関係代名詞なので、A pen の後にコンマではさんで入れる形になります。

